

自分の思いや考えを伝えるための「書く力」を 子供たちに身に付けさせるために

岩崎 裕美

はじめに

現在、情報機器の進展など子供たちを取り囲む社会の変化により、子供たちの書く機会が減少しており、全国学力・学習状況の結果からも、子供たちの書く力が低下していることが明らかになっている。自分の思いや考えを表現する力や文章をまとめて書く力、手紙文を書く力などは、生きていく上で欠かせない力であり、社会が変わろうとも必要となるものである。また、書く力は文章を構成する力でもあり、論作文やレポートを書くときに基盤となる力であるといえる。紙に何かを書き表すだけでなく、自分の思いや考えを表現するためには欠かせない力である。

そこで、小学校の段階で子供たちが「書くこと」に慣れ、自分の思いや考えを伝えるための書く力を定着できるように、国語科の授業を中心に書く力を身に付けさせていきたい。また、「書くこと」は国語科だけでなく、様々な教科に大きく関わる力である。そのため、小学校6年間で「書くこと」を習慣づけ、様々な書き方を身に付けさせていきたい。

したがって、本論文では国語科における書く活動に視点をあてる。現学習指導要領では、国語科で育成すべき資質である、思考力・判断力・表現力等の域に「書くこと」が位置付けられた。そのため本論は、B「書くこと」の指導事項の内容のうち、「考えの形成」と「共有」に視点を当て、自分の思いや考えを伝えるための書く力を育成するための指導に重点を置き、論を進めていく。

第1章 子供たちの「書くこと」の現状

ここでは、小学校の国語科における「書くこと」の位置付けや、小学生の書くことの実態について述べていく。

第1節 学習指導要領における「書くこと」の位置付け

まずは、小学校の国語科において、「書くこと」がどのように位置付けられているのかを見ていく。平成20年告示の前学習指導要領に比べて、平成29年告示の現学習指導要領は、目標と内容が大きく変わった。まずは、目標を比較する。(表1)

現学習指導要領では、目標が3つに細分化され、国語科で育成すべき資質・能力がより明確になった。前学習指導要領では、国語科の最も基本的な目標は、「国語による表現力と理解力」を育成することだとされていた。現学習指導要領では、国語科において育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と示した。表現と理解という言葉には大きな違いはないが、国語科において必要とされている「適切に表現する能力」と「正確に表

現する能力」の位置付けが変わった。前学習指導要領では、国語を適切に表現し、正確に理解する能力と示されていたが、現学習指導要領では、正確に理解し適切に表現する資質・能力と示されている。現学習指導要領では、目標が「正確に理解」「適切に表現」と順番が変わり、まずは国語科における表現を理解し、適切に使うことが求められている。これは、表現する内容となる自分の考えなどを形成するためには国語で表現された様々な事物、経験、思い、考え等を理解することが必要であるとされているためである。

(表 1)：学習指導要領【国語編】目標比較

平成 20 年（前学習指導要領） ⁽¹⁾	平成 29 年（現学習指導要領） ⁽²⁾
語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。 (2)日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。 (3)言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

また、内容は、「三つの柱に沿った資質・能力の整理を踏まえ、従前「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕で構成していた内容を〔知識及び技能〕及び〔思考力、判断力、表現力等〕に構成し直した。」と、解説に示されている。現学習指導要領では、内容項目のうち、「書くこと」は思考力・判断力・表現力に位置付けられた。そのため、「書くこと」において、思考・判断・表現する活動を取り入れることが求められていると考える。書いたことを友達と共有し、相手に伝わる文章を意識したり、自分の書いた文章を表現する過程を重視する必要がある。

内容の構成の改善 ⁽³⁾ p.11)

〔知識及び技能〕	〔思考力、判断力、表現力等〕
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	A 話すこと・聞くこと
(2)情報の扱い方に関する事項	B 書くこと
(3)我が国の言語文化に関する事項	C 読むこと

そして、B「書くこと」の指導事項は、前学習指導要領では「課題設定や取材に関する指導事項」、「構成に関する指導事項」、「記述に関する指導事項」、「推敲に関する指導事項」、「交流に関する指導事項」であったが、現学習指導要領では、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「推敲」、「共有」の8つの学習過程に分類された。(表2)

前学習指導要領と現学習指導要領を比較すると、違いは以下のようになる。

「課題設定や取材に関する指導事項」を「題材の設定、情報の収集、内容の検討」の三つに分けていること、「構成に関する指導事項」を「内容の検討」「考えの形成」の二つに分けていること、「記述に関する指導事項」が「考えの形成（前出）」と「記述」に、「交流に関する指導事項」が「共有」へと変更されたことが挙げられる。その中でも、「考えの形成」が重視され、

自分の考えを明確にし、自分の考えを持つことを意識し、指導を行う必要があるとされている。また、現学習指導要領では、交流ではなく、共有という言葉に変わり、書いた文章を友達と共有し、共有をして得た知識を自分の文章を書く時に活かすことが求められている。

そこで、本論文では、書くことの指導事項のうち、「考えの形成」と「共有」を取り入れた授業を第3章で提案する。現学習指導要領でも重要視されている「考えの形成」を授業において意識し、子供たちが自分の考えを明確にし、高学年になるにつれ、書き表し方を工夫できるような授業を目指す。そして、書いた内容を「共有」し、子供たち同士の理解を深め、子供たちが書く力を身に付けることのできる授業を作り上げていく必要がある。

(表2) : B「書くこと」の指導事項の領域構成 ⁽⁴⁾ p.36)

		(1) 指導事項			(2) 言語活動例		
学習過程		第1 学年及び 第2 学年	第3 学年及び 第4 学年	第5 学年及び 第6 学年	第1 学年及び 第2 学年	第3 学年及び 第4 学年	第5 学年及び 第6 学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	ア	ウ 文学的な文章を書く活動 イ 実用的な文章を書く活動 ア 説明的な文章を書く活動	ウ 文学的な文章を書く活動 イ 実用的な文章を書く活動 ア 説明的な文章を書く活動	イ, ウ 文学的な文章を書く活動 ア 説明的な文章を書く活動
	情報の収集						
	内容の検討						
	構成の検討	イ	イ	イ			
	考えの形成	ウ	ウ	ウ, エ			
	記述						
	推敲	エ	エ	オ			
	共有	オ	オ	カ			

そして、B「書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では、年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では、年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当することと、現学習指導要領で示されている。すなわち、国語の授業の中に、全体の約3分の1の割合で、「書くこと」を配当することになっている。また、その際、実際に文章を書く活動なるべく多くすることとされている。この時数を標準として、書くことの指導計画を立て、書くことに関する資質・能力が確実に育成できるように、実際に文章を書く活動を多くすることが必要である。(表3)

(表3) : B「書くこと」における授業時数 ⁽⁵⁾ pp.160-161)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
306	315	245	245	175	175
年間100単位時間程度		年間85単位時間程度		年間55単位時間程度	

第2節 小学生における「書くこと」の実態～全国学力・学習状況調査の結果から～

では、一体、小学生の「書くこと」の実態はどのようなものか、平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の結果を基に分析する。(表4)

表4より、「書くこと」は、54.6%の正答率から他の領域に比べて低いことが分かる。また、

自分の思いや考えを伝えるための「書く力」を子供たちに身に付けさせるために

問題形式が記述式になると正答率が大幅に下がることから、書く問題で点数がとれない児童や、書くことに苦手意識を持つ児童が多いと予測される。

(表 4)：教科に関する調査結果『小学校国語』〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	72.4
	書くこと	3	54.6
	読むこと	3	81.8
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	53.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	3	57.8
	話す・聞く能力	3	72.4
	書く能力	3	54.6
	読む能力	3	81.8
	言語についての知識・理解・技能	5	53.7
問題形式	選択式	7	75.2
	短答式	4	48.9
	記述式	3	57.8

これらの結果に基づき、「指導改善に向けての課題点」として、国立教育政策研究所は以下のように述べている。⁽⁶⁾ p.11)

調査したことを報告する文章では、調査の結果を基に自分の考えを書くことになる。その際、誰に何を報告するのかといった目的を明確にした上で、どのような理由や事例を挙げて自分の考えをまとめるのかを考えて書くように指導することが大切である。また、調査した目的と調査の結果から考えた自分の考えとがずれないように、書き進める中で見直していくように指導していくことも必要である。調査したことを報告する文章は、調査する内容が特に重要となる。児童の「調べて報告したい」という思いを大切にするために、国語科の学習のみならず、他教科等の学習内容にその題材を求めたり、総合的な学習の時間で行った調査活動の結果を、国語科の「書くこと」の学習で生かしたりすることも効果的である。

以上の全国学力・学習状況調査の結果及びその課題から、根拠を明確にし、まとめて書く力を子供たちに養うべきであることが分かった。

そこで、まずは国語科の授業において、根拠を明確にし、自分の思いや考えを相手に伝えるための「書く力」を子供たちに育成することが教師の為すべき指導ではないかと考えた。

第 2 章 今の子供たちに求められる書く力を身に付けるために

第 1 節 各教科書での各学年の指導内容の分析

本章では、まず小学校国語の教科書を出版している光村図書・東京書籍・教育出版の三社を比較し、各社において、「書くこと」がどのように配当されているのかを確認する。私の実習先でも使われていた光村図書をベースとし、比較していく。また、第 1 章の内容（全国学力・

学習状況調査の結果からみえる課題)より、今回はB「書くこと」の指導事項のうち、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」、「構成の検討」、「考えの形成、記述」、「共有」に関わる部分を主に取り上げる。そして、思考・判断・表現の内容項目にB「書くこと」が位置付けられたことに加え、子供たちに自分の思いや考えを伝えるための書く力を身に付けさせたいことから、「考えの形成・記述」や「共有」を指導事項に含むものを中心に取る。 (3・4 学年ウ又はオ／5・6 学年ウ・エ又はカが含まれているもの)そして、「書くこと」は、3 年生以上に多く取り入れられていることから、各教科書における3～6 年生の教材について、以下にまとめていく。(表5)

また、文章を書くためには、自分の思いや考えを持つことが基盤となるため、「考えの形成」を重視し、自分の思いや考えを明確にした上で書く活動に取り組むことを、表5に記載している単元で実践したいと考える。そして、「考えの形成」を踏まえて、自分の思いや考えを友達と「共有」することを取り入れ、子供たち同士の共有の時間を通して、書く力を磨くことができるような授業を作り上げていきたい。

(表5) : 「書くこと」の教科書分析 (括弧内には「書くこと」の指導事項を赤字で明記 (表2 参照))

会社 学年	光村図書	東京書籍	教育出版
3	<p>上巻 仕事のくふう, 見つけたよ (ア・イ・オ)</p> <p>下巻 すがたをかえる大豆 (イ・ウ・エ・オ) たから島ぼうけん (イ・エ・オ) これがわたしのお気にいり (ア・ウ・エ・オ)</p>	<p>上巻 想ぞうを広げて物語を書こう (ア・イ・オ)</p> <p>下巻 自分の考えを伝えよう (ウ・オ) 心が動いたことを詩で表そう (ア・イ・オ) 「わたしのベストブック」を作ろう (エ・オ)</p>	<p>上巻 取材して知らせよう・インタビューをしよう (イ・ウ・エ・オ) 手紙を書いてつたえよう (イ・ウ・エ)</p> <p>下巻 はっとしたことを詩に書こう (ウ・エ・オ) 強く心にのこっていることを (ア・イ・ウ・エ・オ)</p>
4	<p>上巻 お礼の気持ちを伝えよう (ア・イ・エ) 新聞を作ろう (ア・イ・エ)</p> <p>下巻 世界にはこる和紙／百科事典での調べ方／伝統工芸のよさを伝えよう (イ・ウ・エ) 感動を言葉に (ア・エ・オ) もしものときにそなえよう (ア・ウ・エ・オ)</p>	<p>上巻 みんなで新聞を作ろう (ア・イ・オ) 山場のある物語を書こう (ア・イ・オ) 「ふるさとの食」を伝える (イ・ウ・オ) 言葉で考えを伝える (イ・ウ・オ) 「言葉のタイムカプセル」を残そう (エ・オ)</p>	<p>上巻 リーフレットで知らせよう (ア・イ・ウ・エ・オ) 新聞を作ろう (ア・イ・ウ・エ・オ) 一つの花 (ア・ウ・オ) 「ショートショート」を書こう (ア・イ・ウ・エ・オ)</p> <p>下巻 ウミガメの命をつなぐ (イ・ウ・オ) 「不思議ずかん」を作ろう (ア・イ・ウ・エ・オ) 「便利」ということ (イ・ウ・オ) 自分の成長をふり返って (ウ・エ・オ) 木竜うるし (人形げき) (イ・ウ・オ)</p>

5	<p>〔情報〕 目的に応じて引用するとき (ア・エ)</p> <p>みんなが過ごしやすい町へ (ア・イ・エ・カ)</p> <p>固有種が教えてくれること</p> <p>【情報】 統計資料の読み方 グラフや表を用いて書こう (ウ・エ・オ)</p> <p>あなたは、どう考える (ア・イ・ウ・オ・カ)</p> <p>この本、おすすめします (ア・ウ・オ・カ)</p>	<p>環境問題について報告しよう (ア・エ)</p> <p>反対の立場を考えて意見文を書こう (イ・オ)</p> <p>心が動いたことを三十一番で表そう (ア・オ・カ)</p> <p>わたしの文章見本帳を作ろう (ア・オ・カ)</p>	<p><u>上巻</u></p> <p>ポスターを作ろう (ア・イ・ウ・エ・オ・カ)</p> <p>俳句を作ろう (ア・ウ・カ)</p> <p><u>下巻</u></p> <p>世界遺産 白神山地からの提言―意見文を書こう (ア・ウ・エ)</p> <p>雪わたり (ウ・カ)</p> <p>「図書すいせん会」をしよう (ア・ウ・エ・カ)</p> <p>提案文を書こう (ア・イ・ウ・オ・カ)</p> <p>みずゝさがしの旅-みんなちがって、みんないい (ア・ウ・カ)</p>
6	<p>たのしみは (オ・カ)</p> <p>私たちにできること (ア・イ・ウ・カ)</p> <p>『鳥獣戯画』を読む【情報】 調べた情報の用い方日本文化を発信しよう (イ・ウ・エ)</p> <p>大切にしたい言葉 (ア・ウ・カ)</p> <p>思い出を言葉に (ア・ウ・オ・カ)</p>	<p>防災ポスターを作ろう (ア・エ)</p> <p>世界に向けて意見文を書こう (イ・ウ・エ)</p> <p>心が動いたことを十七音で表そう (ア・オ・カ)</p> <p>「卒業文集」を作ろう (ア・ウ・カ)</p>	<p><u>上巻</u></p> <p>春はあけぼの (ア・カ)</p> <p>随筆を書こう (ア・イ・ウ・エ・オ・カ)</p> <p>パンフレットで知らせよう (ア・イ・ウ・エ・オ・カ)</p> <p>物語を作ろう (イ・ウ・オ)</p> <p><u>下巻</u></p> <p>ぼくの世界、君の世界 (イ・ウ・エ)</p> <p>言葉は時代とともに (ウ・カ)</p> <p>自分の考えを発信しよう (ウ・エ・オ・カ)</p> <p>書評を書いて話し合おう (ウ・エ・オ・カ)</p> <p>ひろがる言葉 (ウ・カ)</p>

第2節 分析より分かる各学年の特徴

第3学年では、全ての教科書会社（以下、三社と述べる。）に共通している点として、光村図書「これがわたしのお気に入り」、東京書籍「わたしのベストブック」を作ろう、教育出版「強く心にのこっていることを」の単元において、2～3月頃に3年生の学習を振り返り、お気に入りのものや印象に残っていることを友達に紹介する文章を書く活動が取り入れられていることが挙げられる。ここでは、書くことの指導事項のうち、「共有」が重視されており、書いた文章を友達と共有し、互いの良いところを伝え合う活動に重きを置く必要がある。また、3年生の段階で手紙文や詩を書くなど、身近なもの結び付けて書く活動を行う傾向があることが分かった。

第4学年では、三社に共通している点として、1学期内に新聞を書く活動が取り入れられていることである。ここでは、自分の考えを明確にし、相手に伝わりやすい文章の構成を練り、学習後には子供たち同士で新聞の書き方を深められるように、教室内に掲示するなどの工夫が必要であると考えられる。異なる点としては、「一つの花」は光村図書と東京書籍にも掲載されているが、この二社では「書くこと」の指導事項を扱っていない点である。一方で、教育出版では、「一つの花」は物語を読んだ感想文を書き、友達と共有する時間が設けられており、書く活動が取り入れられている。したがって、同じ教材でも、教科書会社によって、取り扱い方に違いがあるということが明らかになった。

第5学年では、三社に共通している点として、光村図書「あなたはどうか考える」、東京書籍「反対の立場を考えて意見文を書こう」、教育出版「提案文を書こう」の単元において、意見文や提案文を書く活動が取り入れられていることである。また、第6学年でも、光村図書「私たちにできること」、東京書籍「世界に向けて意見文を書こう」、教育出版「自分の考えを発信しよう」の単元において意見文や提案文を書く活動が取り入れられている。そのため、5年生での学習を振り返るなど、今までの学習を活かし、6年生でより説得力のある文章を書くことができるように指導をする必要があると考える。

また、小学生が使う国語辞典には、意見と提案の意味について、次のように示されている。

・意見とは、あるものごとについての考え。(7) p.66)

あるものごとについて、考えたり感じたりしていること。(8) p.54)

・提案とは、話し合いに、自分の考えを出すこと。また、その考え。(9) p.756)

こうしたらどうかなどと、考えや意見などを相手に向かって出すこと。

(10) p.782)

第6学年では、俳句や短歌を書く活動や、パンフレットやポスターを作る活動など、決められたテーマではなく、子供たちが自由に書くことのできる活動が多いことが分かった。また、三社に共通している点では、6年間の学びを振り返り、思い出を書き示す単元が設けられていることである。そのため、5年生までに自分の思いや考えを明確にし、相手に分かりやすく伝えるための書き方を身に付けさせるべきだと考える。

以上のように、教科書の分析を踏まえ明らかになったことは、自分の思いや考えを伝えるための書く力を子供たちに身に付けさせるために、「考えの形成、記述」や「共有」の指導事項が幅広い単元で取り入れられていることである。例えば、教育出版では、物語文の教材に書く活動を取り入れており、教材を通して感じたことや考えたことを、子供たちが自分の言葉でまとめ、友達と紹介し合う活動が多く取り入れられていることが分かった。そのため、国語科の授業の書く活動において、PDCA サイクル（題材を設定し、実際に書き表し、まとめたものを友達と共有し、感想や意見を踏まえて内容を改善することを繰り返すこと）を幅広く取り入れることで、子供たちに書く力を身に付けることができると考える。

第3章 国語科の授業提案と教師の事前準備

第1節 「考えの形成」と「共有」を重視した授業の提案

では、今の子供たちに課題とされている書く力を身に付けさせるために、全国学力・学習状況調査の結果や本論題のテーマを踏まえて、授業提案をする。今回は、学習指導要領「思考力・判断力・表現力」のB領域「書くこと」における指導事項「ア・イ・ウ・オ・カ」を含んでいる、光村図書の5年「あなたはどうか考える」の単元における授業提案を行う。

また、東京書籍5年「反対の立場を考えて意見文を書こう」、教育出版5年「提案文を書こう」の単元でも活かすことができるため、この教材を選定した。

第5学年 国語科学習指導案

1. 単元名 読み手が納得する意見文を書こう
2. 教材名 「あなたは、どう考える」(光村図書5年 pp.174-179)
3. 単元の目標と評価規準

(1) 目標

- ・身近なものから書く題材を設定し、伝えたいことを明確にし、読み手が納得する意見文を書くことができる。【知識及び技能】
- ・目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。【思考力・判断力・表現力等 B (1) ウ】
- ・文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。【思考力・判断力・表現力等 B (1) カ】
- ・自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫し、友達の意見を取り入れながら、粘り強く取り組むことができる。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①参考文献を読み、文章の構成や展開について理解している。 ②題材を決め、説得力のある文章を構成することができる。 ③ワークシートを友達と交換し、自分の文章を見直し、相手に伝わる意見文を書くことができる。	①「書くこと」において、書く内容を選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。B (1) ア ②「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。B (1) ウ ③「書くこと」において、意見文を友達と共有し、意見文を読んだ意見や感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。B (1) カ	①自分の考えを持ち、書きたい題材を決めている。 ②友達の意見を取り入れながら、意見文を構成している。 ③自分の言葉で意見文をまとめ、自分の考えが相手に伝わるように書き方を工夫している。 ④意見文を友達と読み合い、考えを深めようとしている。

4. 指導観

(1) 単元観

本単元1次では、意見文の構成の仕方を学び、学習の見通しを持つ。実際に新聞や教科書の例を用いて、児童が意見文について理解を深められるようにする。

2次では、自分の関心のあることから題材を決め、自分の考えをまとめる。意見文を書くにあたってのポイントを1つずつ確認する。そして、「題材の設定、情報の収集、内容の検討」→「構成の検討」→「考えの形成、記述」→「共有」の順番に学習を進める。まずは最初、ワークシート①(図2:p.112参照)に構成の検討までをまとめ、友達と読み合う。そして、友達や教師の意見を踏まえて、自分の考えを改めてまとめ、説得力のある意見文をワークシート②(図3:p.112参照)に書く。この活動を通して、自分の考えを表現する力、根拠を基に文章をまとめて書く力を身に付けることができる。

3次では、意見文をグループや学級で共有し、様々な書き方の工夫を学び、考えを深めていく。自分の書いた文章の良かった点や改善点などを見つけ、書き方のポイントをおさえる。そして、説得力のある意見文の書き方や構成の工夫を学習し、自分の考えを伝えるための書く力を身に付けさせていく。

(2) 児童観 今回は省略

(3) 教材観

本単元は、第5学年の12月頃に学習する単元である。また、学習指導要領の指導事項のうち、思考力・判断力・表現力等のB「書くこと」にあたる部分である。5年生の「書くこと」の学習のまとめとして位置付けられているため、今まで学習してきたことを踏まえて意見文を書くことが大切であると考え。また、今の子供たちの課題とされている書く力を身に付けるためにも、時間をかけて丁寧に行う必要がある。

身の回りの疑問や関心のあることから題材を設定し、自分の考えを相手に伝えるための意見文を書く活動を通して、児童の表現力を引き出していききたい。また、説得力のある文章の書き方の工夫に気付かせ、今後の書く活動にも繋げていきたい。

5. 単元指導計画（7時間扱い）

次	時	○学習活動・学習内容	・指導上の留意点◎評価規準（評価方法）
1	1	○学習の見通しを持つ。・新聞や教科書の意見文を読み、意見文について関心を持ち、学習課題と計画を立てる。 ・p.178の例を読み、意見文についてイメージを深める。 ・学習の進め方を確認する。 ・普段の生活で気づいたことや、他の人の意見に共感したり、意見をもったりした経験について考える。	・参考となる意見文を読み、書き方をおさえる。 ・児童の身近なテーマを取り上げるなど、題材を事前に考えておく。 ・身近な出来事について、児童同士が話し合う時間を設けた後、クラスで発表させる。 ◎知識・技能① (行動観察・発言)
2	2	○自分の関心あるものから題材を決め、自分の考えを意見文にまとめる。 【題材の設定】 ・前時で考えた内容（普段の生活で気づいたことや、他の人の意見に共感したり、意見を持った経験）について隣同士で発表する。 ・意見文の書き方を確認する。 ・自分の考えを軸にした意見文を書くための準備【構成の検討】をする。	・説得力のある文章にするために、根拠の示し方について具体例を用いて捉えさせる。 ・意見文の題材について、隣同士で発表させた後、何人かの児童に発表させる。 ・題材がなかなか決まらない児童に対しては、案をいくつか示す。 ◎知識・技能①（行動観察・発言） ◎主体的に学習に取り組む態度① (ワークシート①・行動観察)
	3	○根拠を明確にし、相手に自分の考えが伝わるように文章を構成する。 【考えの形成・記述】 ・ワークシート①に内容を書き込む。 ・主張、根拠を分けて、自分の考えが相手に伝わる文を作る。	・黒板に書き方の順序を提示する。 ・「根拠」という言葉の意味について、辞書などを使い、確認させる。 ・初め、中、終わりを意識して文章を作らせる。 ・ワークシート①に根拠が記入してあるか、机間指導をしながら確認する。 ◎知識・技能②（ワークシート①） ◎思考・判断・表現① 書くこと（ワークシート①）
	4	○自分の主張を友達と見せ合い、他の立場からの考えを基に、文章を見直す。 ・主張や根拠について、説得力があると感じた点や補った方がよい点を、友達と伝え合う。 ・友達の意見を基に、自分の考えに対する反論を予想する。 ・必要に応じて、情報を集め直す。	・互いによかった点や疑問に思った点を伝え合う時間を設ける。 ・意見交換を通して気づいたことを活かし、ワークシート①を完成させる。 ・他の立場からの視点でも意見を考え、説得力のある文章を構成させる。 ・友達の意見を取り入れ、意見文の構成を見直すように助言する。 ・必要に応じて、本やインターネットを活用させる。 ◎知識・技能③（ワークシート①・行動観察） ◎主体的に学習に取り組む態度② (ワークシート①・行動観察)

2	5 6	<p>○前時までの活動を踏まえ、自分の考えを意見文にまとめる。</p> <p>・ワークシート①を基にし、相手に自分の考えが伝わるように意見文を書く。</p>	<p>・意見文を書く前に、書き言葉で書くように、全体で文章の書き方を確認する。</p> <p>・なかなか意見文が書けない児童に対しては、具体的に書き方の手順を1つずつ示し、個への指導を行う。</p> <p>・書き終わった児童には挙手をさせ、教師が意見文の内容を確認し、アドバイスをを行う。</p> <p>・机間指導を行い、全員の進捗を確認し、全員が意見文を書き終えるように、必要に応じて個への助言をする。</p> <p>◎思考・判断・表現②書くこと (ワークシート②)</p> <p>◎主体的に学習に取り組む態度③ (ワークシート②・行動観察)</p>
3	7	<p>○意見文をグループで発表し合う。</p> <p>【共有】</p> <p>・班に分かれ、意見文を読み合う。お互いの意見文を読んで、良かった所を伝え合う。</p> <p>・意見文を読み、相手の考えが伝わる説得力のある文章の書き方の特徴を確認する。</p>	<p>・グループで意見文を共有させ、考えを深めさせる。</p> <p>・何人かの意見文を全体で共有する。</p> <p>・考えを相手に伝えるためにはどのようなことを意識して書けば良いのか、理解させる。</p> <p>・学習の振り返りとして、意見文の書き方を捉えさせる。</p> <p>◎思考・判断・表現③ (行動観察・発表の様子)</p> <p>◎主体的に学習に取り組む態度④ (行動観察・発表の様子)</p>

第2節 授業を行う際の教師の事前準備

前節の授業提案(指導計画)を踏まえて、教師が事前にしておくべき準備が4点挙げられる。以下に、まとめる。

(1) 意見文の参考例を見つける。

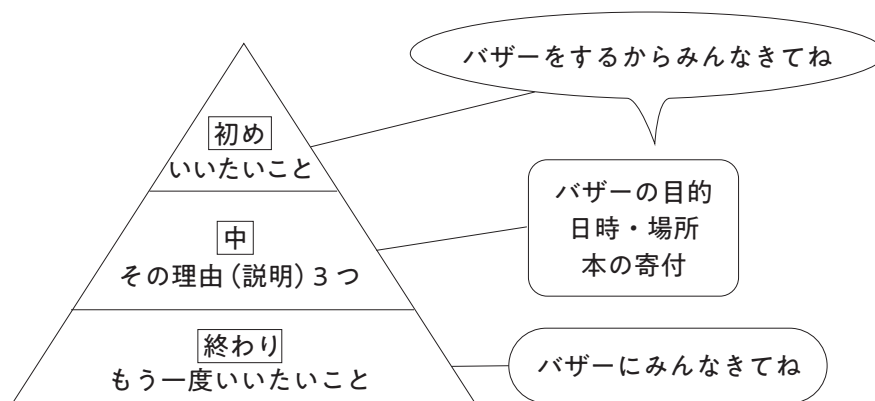
新聞記事での意見文を見つける、又は教科書 p.175 を参考にする。意見文をどのように書けば良いのか、参考例を示し、書き方のポイントを学級全体で事前に確認する。意見文を読み、意見文を書くにあたっての大切なポイント子供たちと共に確認をし、見つけさせてからワークシートに取り組ませる。一方的に書き方を示すだけでなく、子供たちが主体的に学べるように、参考文の中から、書き方の工夫に気付かせる。

(2) ワークシート図 2.3 を作成する。

大庭(2013)は、意見文の書き方に「まとめの三角」を活用することを、図1のように提案している⁽¹¹⁾。

自分の思いや考えを伝えるためには、根拠を明確にし、伝えたいことを強調することが必要である。そして、根拠を基に、意見文を書くことを意識させるためには、「まとめの三角」を活用することが有効である。また、自分の考えを相手に伝えるためにも、初め・中・終わりの形で文章を書く方法を子供たちに身に付けさせたい。

そこで、「まとめの三角」を踏まえたワークシート①を提案する。



(図1) まとめの三角

①指導計画の2-4 時間目で主に活用する。【内容の構成】

以下を踏まえて、初め・中・終わりで順序立てて書くことができるワークシート①を作成した。(図2)

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">☆友達や先生からのアドバイス</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">① 題材を決める。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">② 自分の主張をはつきりさせ、 どうしてそのように考えるのか、 根拠を示す。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">③ 最初に、自分の主張を書く。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">④ なぜそのように考えるのか、 根拠を書く。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">⑤ 最後に、自分の主張を改めてまとめる。</div>	
						あなたはどう考える 番 名前 ()

(図2) ワークシート①例

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">テーマ…</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">番 名前 ()</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <input checked="" type="checkbox"/> チェックしよう！ <input type="checkbox"/> 自分の主張が初めに書いているか。 <input type="checkbox"/> 主張に対する根拠（なぜそう考えるか）が書いているか。 <input type="checkbox"/> 最後にまとめとして、改めて自分の考えが書いているか。 <input type="checkbox"/> 意見文を読み、分かりにくい表現や文章はないか。 <input type="checkbox"/> グループで意見文を読み合い、感想を伝えることはできたか。 </div>	
--	--	--	--

(図3) ワークシート②（意見文）例

「内容の構成」の段階でどのような内容を書くのか、主張を裏付ける根拠は何かを明確にし、意見文に書かせる。本単元では、根拠を1つ以上書くように指導する。初めに題材を決め、次に主張の基になる根拠を示し、最後に改めて自分の考えをまとめる。そして、ワークシート①を隣や班で見せ合い、内容について互いに質問をし合う。友達からの意見を聞き、気付いたことを“友達や先生からのアドバイス”に記入し、文章の書き方を見直す。違う立場からの意見に対して対応できるのか、またどのように書くと説得力のある文章になるのかを考える時間を設ける。様々な角度から考え、説得力のある文章になっているのかを教師も確認し、必要に応

じて助言をする。このように、時間をかけて意見文の内容を構成し、ワークシート①を仕上げてから、意見文を書く活動に取り組ませる。

②指導計画の5-7時間目で主に活用する。【考えの形成、記述】

内容の構成のワークシート①を参考にし、意見文として文章に書き表す。ここでは、話し言葉ではなく、書き言葉で書くように、事前に説明をしてから取り組ませる。また、接続詞の使い方や文の区切り方に注意して書かせる。そして、最後にチェックシートを使って、文章の書き方を確認させる。(図3)

また、なかなか書き進められない児童に対しては、チェックシートを活用し、どの段階まで進んでいるのかを把握し、書き方のヒントを示す。また、ワークシート①を上手く活用し、段階的に学習を進め、自分の力で意見文を書ききることを意識させる。

(3) 意見文の書き方が分かるように、板書資料を作る。

個への指導を充実させることができるよう、事前の教材準備を行う。ワークシート図2の意見文の構成手順、ワークシート図3のチェック欄の文章を、短冊にまとめ、黒板に提示する。また、書画カメラが使えるのであれば、参考例の文をスクリーンに映し出し、全体で意見文の書き方などをおさえられるようにする。

(4) 個に応じた指導に対応できるように、児童の実態把握を行う。

児童がどのくらいの時間で文章を書けるのか、どの程度の文章が書けるのかを普段の授業を通して確認する。児童の実態に応じて、参考文の提示の仕方や指導の仕方を考え、児童の思考力を働かせることができるようにする。

また、意見文を書くことが苦手な児童に対しては、テーマを示せるように、事前にテーマを考えておく。例えば、『日本はゴミ箱を増やすべきか?』『ポイ捨ては罰金にすべきか?』『電車やバスの優先席は必要か?』『学校は給食ではなく、お弁当にすべきか。』などが挙げられる。

反対に、書くことが得意な児童に対しては、テーマを他に示し、時間の許す限り意見文を書く活動を行わせる。本単元を通して、子供たちに様々な視点から物事を見る力、説得力のある文章を書く力を磨きたいと考える。

第4章 子供たちに書く力を身に付けるための教師の手立て

書く力は、自分が伝えたいことを文章にして伝えることでもある。文章を書くことで、自分が考えたことや思いつきを頭の外に出して見えるように可視化し、頭の中の思考を整理することができるようになる。手紙文や意見文を書くだけでなく、自分の思いをまとめて表したり表現するためにも、書く力が重要であると言える。そのため、小学校6年間の学習を通して、自分の思いや考えを伝えるための「書く力」を身に付けさせることが必要である。また、国語科の授業においては、書くことに慣れさせ、自分の考えを明確にし、まとめて書くことができるようにすべきだと考える。

第1節 教師の働きかけの例

埼玉教員養成セミナーでの学校体験実習や教育実習を経験した中で、国語科においては話す・聞く、書く、読むの力をバランスよく養うことが大切であると実感した。授業において受け身になってしまうことが多い国語科においても、主体的・対話的で深い学びを実践するために、子供たちが意欲を持ち、主体的に学べる活動を取り入れることが大切である。

また、書く活動においては、自分の思いや考えを明確にし、相手に伝えることができる文章の書き方を身に付けさせることが必要であると考え。書く力は一朝一夕で身に付くものではなく、繰り返し、粘り強く指導することで身に付く力であるため、継続的に指導をすることが重要である。

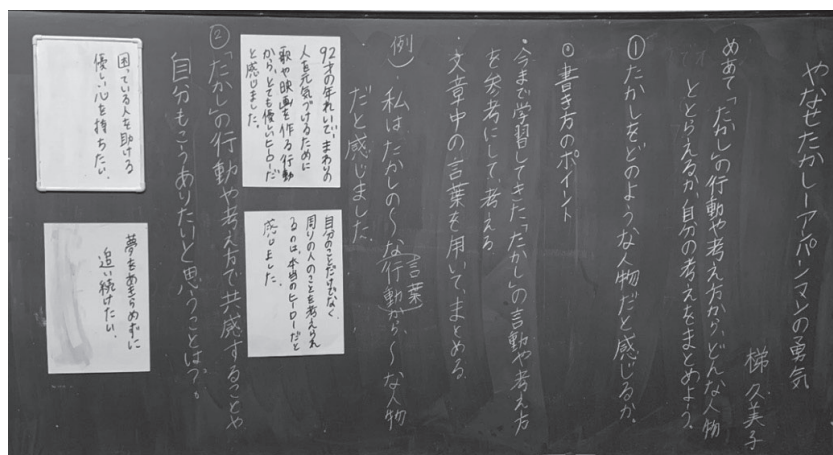
だが、学校現場で授業実践をすると、書く活動に取り掛かれない、いわばスタートの段階でつまづいている児童が多くみられた。何を書けばよいのか、どのように書けば良いのかが分からず、手が止まっている様子が見受けられた。書き始めでつまづいてしまうと、書くことに苦手意識を持つことに繋がると考える。また、樋口（2006）は、「文章は自分で書いて初めて、言葉を扱うことの難しさがわかり、書き手の心理を創造できるようになり、作者が何を言いたくて書いたのかが読み取れるようになる。」⁽¹²⁾ (p.39)」と述べている。

そのため、まずは自分の力で文章を書くことができるよう、子供たちが同じスタートラインに立ち、書くことに苦手意識を持たないような教師の手立てが重要であると考え。子供たちが書くことに苦手意識を持たずに、書くことを習慣づけることができれば、中学校以降の段階でも大いに活かすことができる力になるのではないかと考える。

そこで、埼玉教員養成セミナーでの学校体験実習や教育実習での実践によって得た具体的な指導について「板書」「机間指導」「教室環境」「他教科との連携」の4つの視点から以下に述べる。

(1) 板書と事前の説明の工夫 (図4・5)

書く活動において、具体的にどのようなことを書けば良いのか、初めに例を用いて詳しく説明し、子供たちが共通理解をし、学習に臨めるように板書を工夫する。また、何も書けない児童がいないように、書く活動に取り掛かる前の説明の仕方を工夫し、自分の力で最後まで文章を書くことを経験させる。

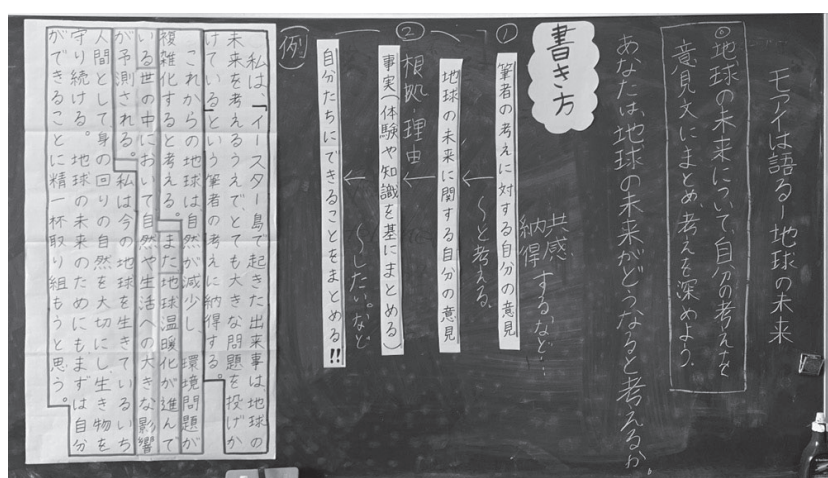


(図4) 小学校教育実習 研究授業 (2020年10月8日)
光村図書 国語五「やなせたかしアンパンマンの勇気」板書計画

実際に小学校で実践した板書(図4)である。小学校の実習では、自分の考えを書く活動の前に、書き方についての説明を丁寧に行ったことで、書くことが苦手な児童も周りの児童と同じペースで取り組むことができていた。何を書けば良いのか、どのように書けば良いのかを理解し、スムーズに取り組むことができて

いる児童が多かった。また、先に書き方を示すことで机間指導をしながら、児童の様子を把握することができ、個への指導を充実させることができた。

そして、授業実践をして気付いたことは、全て教師が説明してしまうのではなく、児童と共に考える時間を設けることが大切であるということである。全て話してしまうと、教師が決めた形の中で学習を進めることになる。児童主体の学習を行うためには、教師が説明をすることが主軸となる導入は望ましくない。児童の思考力を働かせるためにも、「どうすれば、相手に伝わる意見文を書くことができるかな。」のように発問をし、児童から意見を引き出すことを心掛けるべきであると学んだ。私は、授業実践で時間通り授業を進めようと意識しすぎたため、話過ぎてしまったことが反省点としてある。そのため、授業をする際には、一方的に説明をしてしまうのではなく、児童と共に作り上げる授業を行うことが大切であると感じた。



(図5) 中学校教育実習 研究授業 (2020年10月29日)
光村図書 国語二「モアイは語るー地球の未来」板書計画

実際に中学校で実践した板書(図5)である。中学校での実習では、意見文を書く際に、1時間の授業の中で「共有」までを行い、友達同士で意見共有をする活動を取り入れたため、まず初めに意見文の書き方を示した。そうすることで、教師が事前に考えた参考文献を途中で提示し、個に応じた指導を充実させることができた。根拠を基に書くことで、班で意見文を共有した

際に説得力のある文章を読み合い、考えを深めることができていた。

また、授業のまとめの発表の中で「友達の意見文を読むことで、新たな考えを知り、考えを深めることができた。」と話していた生徒がいて、書いたことを共有することは、非常に大切であると学んだ。児童生徒が「共有」を通して、学びを実感することができるのは、授業において欠かせない要素であると感じた。

(2) 机間指導

机間指導をしながら、子供たちの様子を確認し、進み具合をメモすることで、授業の様子を把握し、個への指導を充実させることができる。

私は、授業実践で机間指導を心掛け、児童の実態を把握したことで、児童のつまずきに一早く気づき、個に応じた指導を実践することができた。また、机間指導をする中で児童の様子を把握したことで、多くの児童が活躍できる場を与えることにも繋がった。机間指導の重要性に改めて気づき、教師が意識的に行うことが大切であるということが分かった。

そこで、授業の中での机間指導を活かした教師の手立てとして、手が止まっている児童には

ヒントカードを提示することを提案する。

例えば、光村図書 5 年「この本、おすすめします」(pp.206-210) のすいせん文を書くまでの過程の場合、カードの内容は以下ようになる。

- ①朝の読書で読んでいる本や家で読んでいる本をノートに書き出そう。
- ②その中で、自分が友達や下級生におすすめしたい本を 1 つ選ぼう。
誰におすすめするのかを決めよう。 例) ○○すきな○年生
- ③その本の中で、自分が好きのところ、おすすめしたい部分に付箋 (ふせん) をはろう。
そして、本にはどんな工夫がされているか、何について具体的に書かれているかを付箋にまとめよう。

などのように、児童の進度によって①から順番にカードを提示し、手順を示す。時には、具体例を提示し、真似をすることから始めさせ、最後まで文を書ききることを経験させる。

書くことが苦手な児童に対しては、想像力を膨らませるためにも、このような一つ一つの丁寧な手立てが必要だと考える。

(3) 教室環境の充実

教室内に国語コーナーを掲示し、今までの学習を復習できる環境を整える。意見文に限らず、手紙文や詩など、1 年間を通して書く力がどの程度身に付いたのかを確認する場としても活用する。また、授業においては、書く活動を行う前に、書く時のポイントをおさえて書けている文章を紹介するなど、児童同士の理解を深めることができるようにする。私が実習をした小学校でも、子供たちが書いた「詩」が教室の右側の壁に掲示されていた。教師は、掲示をして終わりにするのではなく、お互いの文章を読み合う時間を授業内に設けるなど、「共有」する場として国語コーナーを活用する必要がある。

(4) 他教科との連携

国語科だけでなく、各教科で自分の思いや考えを根拠を基に書き、友達と共有する活動を習慣化させる。例えば、「算数科」では、なぜそのように考えたのかをまとめ、友達に説明する活動、「理科」では予想を立てる際に根拠を基に書き示し、発表し合う活動を取り入れる。また、「社会科」では書き方の工夫を考えるための新聞作りの活動を行い、相手に分かりやすく伝えるためにはどのような書き方をすれば良いのかを考えさせる。このように、各教科で書く活動や書いたものを共有し、考えを深める活動を取り入れ、子供たちに「書くこと」を習慣づけさせる。そして、子供たちが書いた文章や新聞を教師が確認し、授業で発表する機会を設けるなど、授業内容を充実させる。また、机間指導をしながら確認したり、コメントをして返却するなど、一人一人の書く力がどのように変化してきているのかを定期的に確認し、褒めて伸ばす姿勢を大切にする。

第 2 節 国語科の授業における「書くこと」の習慣づけの提案

書く力は、一単元の授業で身につくものではない。小学校では、6 年間の学習を通して、自

分の思いや考えを根拠を基に持つことが出来るようになると、自分の言葉で書き表せるように成長していくと考える。そのため、「書くこと」の指導事項が配当されている授業において、書く活動を意識して取り入れるだけではなく、長期的な視点で継続的に書く活動を取り入れることが必要である。特に、2章で見てきたように、5年生を境に意見文を書くなどの活動が取り入れられるため、高学年になる前に習慣化させたい。そこで、以下に、私が考える習慣づける方法を2点示す。

(1) 新聞記事を活用した「書くこと」の習慣づけ

2週に1回程度、教師が新聞記事の見出しを1つ抜き出し、児童に紹介する。

池上(2009)は、「投書欄では、さまざまな立場の人が意見を発表しています。中には、「ベビーカーは電車の中で折りたたむべきか否か」というように、読者の考えが大きく分かれる問題について語られることもあります。このようにテーマを与えれば、自発的に考えるのが苦手な子どもでも「自分ならどう思う?」と自分に問いかけることができます。⁽¹³⁾ (p.179)」と述べている。そのため、新聞記事は子供たちが自分の意見を考え、書き示す材料として適していると考えられる。また、今の子供たちは新聞を読む機会が減っているため、新聞に触れる機会を設けるためにも、新聞を取り入れたいと考える。

学習活動としては、新聞記事の内容に対して自分はどうか考えるか、賛成か反対かを5分間でノートに書かせる。そして、なぜそのように考えるのか理由も書かせる。事前に、教師も児童が行う活動と同じ活動を行い、児童がどのような文を書くと思うか、予め考えておく。新聞記事も児童に分かりやすいように、身近な物から始め、段々と内容を深めることができるように題材を収集する。そこで、参考例を以下に、2つ示す。(図6・7)

質問①

国内では80を超える動物園があります。そのため、日本は、動物園大国とも呼ばれています。アンケートによると、動物園がこんなに必要なのかなど様々な意見が上がり、意見が大きく分かれました。

あなたは、80をこえる日本の動物園の数についてどう思いますか。

また、なぜそのように考えるのか理由もまとめてみましょう。

(図6) 朝日新聞⁽¹⁴⁾ 2020年11月8日(日)7面

図6の新聞記事を用いて、子供たちに動物園の数について考えさせる。日本には、動物園が80以上あるが、これは必要なことなのか、反対に多いのではないかと、自由に意見を書かせる。

この時に、机間指導をしながら、なぜそのように考えるのか根拠を書けているのかを確認する。「動物が好きだから。」という意見だけでなく、動物は生き物であることにも気付かせるなど、子供たちが様々な視点から考えることができるようにしたい。

また、今年は新型コロナウイルスの影響により、動物園の経営が困難になっているという記事も紹介するなどし、教材の準備も事前に行う。

7 朝日新聞 2020年11月22日(日) 7面

フォーラム

無人駅とバリアフリー

駅員がいなくても無人駅が全国各地で増えています。九州では、乗車券の利用者が減るなどのデメリットが懸念されています。一方で、乗客の利便性を高めるメリットもあります。現状と課題を、関係者から話を聞きました。

車いす事前連絡「差別」
移動の自由侵害、JR九州を提訴

わがままと切り捨てるのか
代理人の徳田博之弁護士

外出機会奪われる ■どこかに妥協点を

無人駅とバリアフリー

駅員がいなくても無人駅が全国各地で増えています。九州では、乗車券の利用者が減るなどのデメリットが懸念されています。一方で、乗客の利便性を高めるメリットもあります。現状と課題を、関係者から話を聞きました。

車いす事前連絡「差別」
移動の自由侵害、JR九州を提訴

わがままと切り捨てるのか
代理人の徳田博之弁護士

外出機会奪われる ■どこかに妥協点を

JR九州 映像で見守り
無人化「交通網維持に必要」

無人駅は、乗客の利便性を高める一方で、駅員の雇用削減や、乗客の安全確保などの課題があります。JR九州は、無人駅を増やす一方で、乗客の安全確保や、乗客の利便性を高めるための取り組みを行っています。

無人駅4564駅 全体の48%

無人駅は、乗客の利便性を高める一方で、駅員の雇用削減や、乗客の安全確保などの課題があります。JR九州は、無人駅を増やす一方で、乗客の安全確保や、乗客の利便性を高めるための取り組みを行っています。

(図7) 朝日新聞 (15) 2020年11月22日(日) 7面

この活動 図6・7で大切なのは、賛成や反対よりも自分の思いや考えをきちんと表すことができるのか、根拠を基に相手が理解できるような書き方ができているかである。文字数は特に制限せず、児童の実態に応じて指示を工夫する。まずは、児童一人一人に自分の考えを持たせ、文章に書き表すことができるようになることを目指す。

教師は授業後に、児童が書いた文章を確認し、書き方に対してコメントを加え、児童にノートを返却する。否定的なコメントではなく、「〇〇さんが知っていることをもとに、理由をそえて文章をまとめられていてすばらしいですね。」や「理由が具体的に書かれていて、説得力がありますね。」のように具体的に良かった点を書く。そして、文章が最後まで書けていない児童に対しては、直接話を聞き、どこを苦手に感じているのか、何につまずいているのかを、早い段階で教師が把握する。また、書く時のポイントをノートに書き加え、1か月での児童の文章構成力の変化を確認し、褒めることを心掛ける。

また、授業内において、時間がある時には、書いた文章を交換し合い、互いに読み合う活動を取り入れ、友達の書き方の工夫に気付かせる。友達の文章を紹介したり、国語コーナーに児童の文章を掲示し、教室環境も整える。また、書いたことを子供たち同士で見ることのできる環境を作り、書き方の工夫や説得力のある文章の書き方を真似することができるようにする。

(2) ノートの取り方 (図8) の工夫

「書くこと」を習慣づけるために、5年生までにこの活動を取り入れたいと考える。

											○月 □日 ()
											教材名など
自分の思いや考え、初めて知ったことなどをいつでも書くことのできるメモスペースを作る。 友達の意見を聞いて考えたこと・教師の話をまとめるなど、国語科の授業を通して、書く習慣を身に付けさせる。											メモ

(図8) ノート例

ノートを取る際に、ノートを7:3の割合(上:下)に分け、下には自分が考えたことや友達、教師の話を聞いて分かったことをまとめる。普段から、自分の思いや考えを書き留める習慣を付けさせ、書くことに親しませるのが目的である。私が実習をした小学校でも実践されており、児童が自分の意見や考えをまとめるスペースや教師の言葉をメモするスペースとして活用されていた。

また、樋口(2006)は「まずは手紙や日記、簡単なメモ書きでもかまいません。大切なのは、子どもが喜んで自主的に書く“場”を整えてあげ、日々

の中で「書きたい」と思うことを発見させてあげることです。⁽¹⁶⁾ (p.18)」と述べている。そのため、自由に書くことができるスペースをノートに設け、書くことの楽しさに気付かせていくべきであると考え。そして、教師が机間指導をしている際や、ノートを回収した際にメモスペースに書いてある内容を確認し、良かった点を全体で共有するなど、子供たち同士の学習意欲を引き出していく。

留意点としては、児童の実態に応じて取り入れることが必要だということである。板書をするスピードが遅い児童や複雑な活動を取り入れることが苦手な児童に対して、この活動を取り入れるのは望ましくないと考える。まずは、児童の実態を把握し、板書することに慣れ、時間に余裕が出てきたら取り入れるようにしたい。あくまでも、板書をするを前提として、応用した形でこのノートの取り方を取り入れたい。

おわりに

子供たちに求められている書く力を養うためにも、1つ1つの授業で児童が主体的に学べる活動を取り入れ、教師が授業内容を充実させていく必要があると考えた。そこで、本研究を通しての成果と課題を以下にまとめる。

まずは、成果として、今の子供たちには、根拠を明確にし、まとめて書く力を養うべきであるということが明らかになった。そのため、国語科の授業で継続的に書く活動を取り入れることが必要であることが明確になった。また、光村図書、東京書籍、教育出版の三社の各学年の教科書の分析をし、小学生の集大成として6年生での書く学習を主体的に取り組むことができ

るように、5年生までに自分の思いや考えを伝えることのできる書く力を身に付けるべきであることも分かった。

そこで、国語科の授業においては、子供たちが自分の考えを持ち、なぜそのように考えるのか根拠を明確にした上で、書く活動を習慣づけることが重要である。そして、文章を書いていく過程で、書き表し方の工夫に気付き、文章を書くときに意識することができるようになることを目指していく。また、自分の思いや考えを伝えるための書く力を子供たちに身につけさせるためには、書いた文章を友達同士で読み合い、書き方の工夫に気付き、自分の文章に活かすなど、「共有」をすることも大切である。文章を書いて終わりにするのではなく、子供たち同士で学び合い、深め合うことで、書く時の工夫を学び、書く力の育成へと繋げることができる。したがって、書く単元に限らず、国語科の授業全体を通して、根拠を明確にし、自分の考えを持つことと、子供たち同士の学び合いとして共有の場を大切にしていきたいと考えた。

しかし、課題は、本研究を踏まえて現場で実践し、子供たちに指導を行うことができなかったことである。そのため、子供たちにどのような効果を持たらすのかを理解し、指導改善へと活かせなかった。したがって、これから現場に出た際に、子供たちに書く力を養うための指導を実践したい。また、子供たちに書く力を身に付けるために、国語科を中心として、長期的な視点で書く指導にあたることが大切であると考え。子供たちが小学校6年間の学習を通して、自分の思いや考えを伝えるための書く力を身に付けることができるように、児童の実態を把握し、教師自身も教材研究を行い、日々学び続けていく。

そして、これからの未来を担う子供たちが「書くこと」離れをすることがないように、国語科のB「書くこと」領域の指導事項のうち、「考えの形成」「共有」を授業内で重視し、自分の思いや考えを伝えることができる書く力を身に付けさせていきたい。

謝辞

最後に、本研究を進めるにあたり、山室先生には大変手厚くご指導をいただき、感謝申し上げます。学習指導要領の改訂に伴い、今の小学校国語科に求められている指導内容を理解し、論文作成に活かすことができました。また、小学生の「書くこと」について研究を進めることで、現場で国語科の授業をするときに役立てることのできる知識を養うことができました。本研究を通しての成果と課題をこれから現場で最大限活かしていきます。

注

- (1) 文部科学省【国語編】小学校学習指導要領（平成20年告示）解説 pp.15-26 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1231931_02.pdf（最終閲覧日 2020年12月9日）
- (2-5) 文部科学省【国語編】小学校学習指導要領（平成29年告示）解説
- (2) p.15 目標 (3) p.11 内容 (4) p.36 書くことの指導事項
- (5) pp.160-161 時数 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/afield

file/2019/03/18/1387017_002.pdf（最終閲覧 2020 年 12 月 9 日）

- (6) 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 報告書【小学校】国語 p.11 <https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/data/19plang.pdf>（最終閲覧 2020 年 11 月 14 日）
- (7) 株式会社 日本標準（2003）『新版小学国語学習辞典』 p.66
- (8) 株式会社 三省堂（2008）『例解新国語辞典』 p.54
- (9) 株式会社 日本標準（2003）『新版小学国語学習辞典』 p.756
- (10) 株式会社 三省堂（2008）『例解新国語辞典』 p.782
- (11) 大庭コテイさち子（2013）『思考力・判断力・表現力をきたえる はじめてのロジカルシンキング② 書く力』偕成社 p.8, p.24
- (12) 樋口裕一（2006）『"書く力"で子どもを伸ばす』株式会社学習研究社 p.39
- (13) 池上彰（2009）『小学生から「新聞」を読む子は大きく伸びる！』株式会社すばる舎 p.179
- (14) 『朝日新聞』2020 年 11 月 8 日（日）7 面 朝刊
- (15) 『朝日新聞』2020 年 11 月 22 日（日）7 面 朝刊
- (16) 樋口裕一（2006）『"書く力"で子どもを伸ばす』株式会社学習研究社 p.18

参考文献

- 文部科学省【国語編】小学校学習指導要領（平成 20 年告示）解説 https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2010/12/28/1231931_02.pdf（最終閲覧日 2020 年 12 月 9 日）
- 光村図書 新しい学習指導要領の方向性 https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_kokugo/newcs/index.html（最終閲覧日 2020 年 12 月 9 日）
- 光村図書 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（通常期用） https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s_kokugo/keikaku/index.html（最終閲覧日 2020 年 12 月 10 日）
- 東京書籍 小学校国語 令和 2 年度 年間指導計画作成資料 <https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/list/keikaku.html>（最終閲覧日 2020 年 12 月 10 日）
- 教育出版 小学校国語 指導計画・評価関連資料 <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/textbook/shou/kokugo/document/ducu1/j-index.html>（最終閲覧 2020 年 12 月 10 日）
- 光村図書 小学校国語 令和 2 年度 国語五 教科書
- 光村図書 小学校国語 令和 2 年度 国語五 教師用指導書
- 光村図書 中学校国語 令和 2 年度 国語二 教科書
- 国立教育政策研究所 平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について <https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/19summary.pdf>（最終閲覧日 2020 年 11 月 16 日）
- 国立教育政策研究所 全国学力・学習状況調査 授業アイディア例 平成 31 年度（令和元年度）小学校 国語 <https://www.nier.go.jp/jugyourei/h31/data/19p.pdf>（最終閲覧日 2020 年 11 月 16 日）